
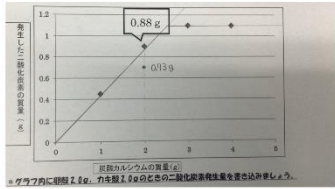


(別紙様式)

1人1台端末の活用による実践事例

学校名	岡山県立和気閑谷高等学校		
実践者等	原田 稔生	実践日	令和3年11月11日
実践場面 (教科・科目、学校行事等)	理科・化学基礎		
対象生徒(学年等)	普通科2年		
単元名 (教科・科目の場合のみ)	化学反応と量的関係(カキ殻・卵の殻の炭酸カルシウム含有割合を調べる)		
使用したアプリ等	google ドキュメント インターネット検索		
実践の概要(ねらい等)	実験の様子や反応状況を写真や動画で記録して、実験レポートの作成を行う。		
実践の内容			
<p>①カキ殻の再利用について考える。【導入】</p> <ul style="list-style-type: none">・肥料や家畜の飼料、アクセサリなどに再利用 <p>②カキ殻や卵殻の主成分含有割合をインターネットを利用して調べる。【調べる】</p> <ul style="list-style-type: none">・カキ殻 主成分；炭酸カルシウム(82%)・卵殻 主成分；炭酸カルシウム(94%) <p>③炭酸カルシウムと塩酸の反応から発生する二酸化炭素量を測定しグラフ化する。【実験】</p> <p>④カキ殻や卵殻と塩酸の反応から発生する二酸化炭素量をもとに、炭酸カルシウム含有割合を求める。【実験】</p> <p>⑤実験レポートをgoogleドキュメントで作成し、考察の考え方などを学ぶ。【まとめ】</p> <p>※実験中の操作の様子や反応状況などを写真や動画で撮影し、実験レポート内に取り入れる。</p>			
		<p>実験結果グラフ</p>  <p>考察(プリントの文章を確認をして、入力しましょう。)</p> <ul style="list-style-type: none">・グラフから考えると、炭酸カルシウム0.88g反応するとき、二酸化炭素0.88g発生した。牡蠣殻を2.0gを反応させると、二酸化炭素が平均0.73g発生したので、牡蠣殻の中に含まれる炭酸カルシウムは83%であると考えられる。 <p>計算式 $100 \times 0.88 \div 0.73 = 0.888 = 73.3 = 82.954 \dots$</p>	
参考となるHP等	<p>http://takakis.la.cocan.jp/seibutu.htm https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/338186_1621075_misc.pdf</p>		

実践の様子が分かる写真等を適宜入れてください。(肖像権の確認等は各校で行った上で提出してください。)